

## 呉市観光振興計画策定委員会 第1回会議 摘録

- 1 日 時 令和2年10月12日（月）14時～16時15分
- 2 場 所 呉市つばき会館 生涯学習センター407・408会議室
- 3 概要・骨子

14:00

【委員紹介】省略（資料1）

### 【市長ビデオメッセージ】

皆さん、こんにちは。呉市長の新原芳明です。

皆様には、本委員会の委員就任をお引き受けいただき、また本日もご出席をいただき、ありがとうございます。

この委員会が取り扱う観光産業は、呉市の将来、特に次世代を担う若者や子供達にとって極めて大事です。

委員の皆様にはこれからの呉の観光を担っていただく期待のキーパーソンを選ばせていただきました。また、委員のお一人として、我が国の観光カリスマの山田桂一郎先生に加わっていただいております。山田先生は観光を産業として捉え、顧客としての観光客に繰り返し呉を訪れていただき、満足していただき、多額の消費をしてもらうにはどうしたらいいか、どの業種にも共通するマーケティング理論に強く、同時に豊かな経験を有しておられます。

これからの観光産業を担う委員の皆様と山田先生とのケミストリー、つまり化学反応で大きな推進力が生まれることを期待しています。

最後に、事務局には委員の皆様思い切り発言していただき、それを要領よく整理して、次の会議での議論がスムーズで効率的に進められるよう、黒子として委員の皆様を支えていただきますようお願い申し上げます。

### 【開催要綱】

開催要綱について事務局から説明（資料2）

### 【座長及び副座長の選出】

互選により、座長に 山田 桂一郎 委員 を選出  
座長の指名により、副座長に 中原 充生 委員 を選出

14:15

**【議題 1】**

「呉市観光振興計画策定の必要性及びスケジュール（案）について」事務局から説明（資料3）

**【議題 2】 呉市観光の現状について**

「ア 今後の人口減少，日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地区の休止方針，新型コロナウイルスによる影響」事務局から説明（資料4-2）

「イ 呉市観光振興計画策定に係る基礎調査業務 クロス集計レポート」事務局から説明（資料5）

14:40

**【山田顧問講話】**

「呉市が目指すべき観光振興について」山田顧問から講話

15:20

**【質疑・意見交換】**

**委員からの主な意見は次のとおり**

- 観光客の消費額を上げて，できるだけ経済波及効果を地域にもたらす必要がある。  
計画の策定に当たっては，人口減少などによる影響から出てくる市全体のマイナス部分を，観光でどれくらい埋めていくかを議論する必要があるということであるが，そのような取組をしている自治体は他に例があまりない。  
呉市では，そこにスポットを当てているので，この観光振興計画は市全体の戦略になってくるのではないかと。
- 呉港周辺の活性化ができれば良い。  
ターミナルを拠点として，クルーズ体験の間に，商店街から名物を取り寄せて，その場で消費していただけるようなことを考えている。
- 観光振興はあくまで手段であって，それから何を得的か，暮らしの豊かさにどのように繋げるかが重要。

一番の主役は地域なので、どういうビジョンを描いて観光によって何を  
得るかが大事。

日本人のアイデンティティーや継続性に対して、観光振興の目的として  
明確なビジョンが必要。

⇒山田座長

マーケティングにより、地域全体でどう取り組むかということが求めら  
れることを念頭に、市役所や商工会議所・観光協会等の営業部隊などが協力  
して、顧客データベースを活用した BtoC の取組が必要。

そのためには、新たな組織による戦略設計、意思決定する体制づくりが  
必要。

- 事業者には他力本願なところがあって、誰かがやってくれる、市役所が  
やってくれるというところがある。これでは街が動かないと感じている。  
事業者や様々な組織がどういった形で関わって、それを誰がマッチング  
していくか考えていく必要がある。

わかりやすく関わりやすい仕組みがあれば多くのモノが生まれてくる。

⇒山田座長

呉市には呉ファンクラブというツールがある。

顧客データベースとして活用できれば、コミュニケーションを取りなが  
ら商品化することができる。困ったときこそ、繋がりのある顧客やハード  
リピーターが頼りになる。

- 商工会や観光協会など、様々な機関が一つの方向に向かって考えていく  
ことが必要。

観光を産業としていくには儲からないといけない。

重要なのは観光消費と宿泊が非常に大切だと感じた。

計画の具体化に際しては、強力なエンジンとなる組織が必要。

⇒山田座長

仕組みと体制づくりは重要。DMO にしても法人化する組織全体が儲かる  
体制をどうするのかということをしっかり考えていく必要がある。

- 儲からないと後継者も出てこないし、店をたたむことになる。  
これから指標を考えていくことになるが、観光客数ではなく観光消費額  
にした方がよい。

呉の観光には、お金を落とす仕組みがなく、大和ミュージアムに行って  
そのまま帰る状況。昼だけの観光ではなく、夜の観光が重要。

市民の方に観光振興は儲かるということを実感していただいて、街に色々な方が来ることは、うれしいことだと思っただきたい。

- エッジの効いた計画にしていきたいという、呉市の思いが伝わる委員のメンバー構成だが、観光振興体制の必要性はみんな持っていると思う。  
一体感の醸成により、他力本願のような街の体制を変えることにつながる。  
呉には良いコンテンツがたくさんあり、それを武器に、これが呉だというモノを作りたい。
- 地域の内需活性化という話は刺激的で、資源があるところにお金を落とすという話に共感した。  
昔の呉は自慢の街だったのに、大人になって帰ってきてみると、おもてなし感がなくなっていて残念な思いがしたので頑張っていきたい。
- 呉には市民でも知らない良いところがたくさんある。  
委員会を通してエリア毎の良いところを繋げていきたい。
- 委員会の顔ぶれから、これまでと違う結果が出てくると期待している。  
コロナの状況により、これまでになかったイベントも開催されており、これまでになかった呉になっていっていることを実感している。
- 観光は楽しいものであり、観光客に対する気持ちを変えていかないといけない。  
観光産業を通じて出会いがあり、喜びが生まれ、お金が落ちるという小さな成功の積み重ねが重要。
- 一つの大きな考えから戦略を作って総合的に実施していくことが大事。  
そのための計画と考えている。

16:15

**【閉会】**